

食ふといふこと

あかたにけいこ
赤谷慶子

人間食ざれば死す。病人口より食べらるるか否かによりて、回復力極めて異なるとも言はる。吾は團塊の世代にて物心つきし頃より腹を空かせたりといふ経験なし。ただ菓子類は確かに皆無にて、小學校低學年なる程に及びて駄菓子など店頭に出現せり。

最近友人たちに會ふと「美味しき食事せまほし」と考ふる人の多きに驚く。若かりし頃は何かと多忙にて、特に自分の如き仕事人間は三度の食事を喰はんことも忘れ、目前の仕事に没頭する事も多かりき。されど、あまりにも空腹を覺ゆれば、些細なる事にも腹立つこと少なからず。「腹が減っては戦ができぬ」とは良く言ひしものなり。

食事せしか否か記憶のなかりし経験あり。新聞社勤務に於て最後の大きな仕事は御巢鷹山に日航機墜落せし事件なり。吾所屬する部署は英文にて日本のニュースをニューヨークタイムズの配信網に乗せる事業主體なり。然るに、海外よりの要望殺到し、二日間徹夜状態なりき。晝食と夕食は辨當支給され、五分にて完食せよとの部長命令なりきと記憶せり。まことに食ひても食ひたりとの感覺を覺えず。當時は女性記者は夜間働くには制限ありて、假眠とする部屋も女性専用は本社に存在せず。仕事場の横にソファあり、屏風のごときものにて人の目を遮るのみにて假眠したりき。何を食ひたりやの記憶もなし。

その後、女性の友人たちと共に英文にて日本の金融情報提供すニュースレター出版する會社立ち上げし時も、最初の一年は毎日午前三時に到るまで仕事を續くるあり。スタッフの食事には最大限配慮し、徐々に皆の機嫌悪しくなる気配察知し出前を取るが慣ひなりき。その二年後この業務に日本經濟新聞社參入する事判明し、我々即刻撤退を決め、徐々に増え始めし國際會議の運営に携はる決断をしたりき。未だこの業務は新しく經驗値を買はれ急成長するを得たり。この業界にても食事に結構配慮を伴ふ事となれり。APEC首腦會議の晚餐會含む食事の全メニュー英譯せよとの依頼を受けき。豪華絢爛たる食事のメニューなれど、この作業は難儀なる事判明。世界遺産となりし和食は日本各地の材料驅使したる料理提供せられたり。されど、料理人に聞かざれば英文にはならぬ代物殆どなりき。茶碗蒸しはただの茶碗蒸しに非ず。翻譯に携はりたる一同頭の痛き作業なりき。その料理口に入る人たちに理解せられずば何の甲斐かあらん。

この長き経験の中にて、食事一番乏しかりしは長野の冬季オリンピックの長野にてのひと月なりき。二月の長野は粉雪舞ひ寒し。通譯業務を擔當する部署には早朝凍りし辨當支給せられたりき。気温低き事もあり、辨當は晝食時にも融けず、三十名のスタッフの大半は辨當を抛棄し外食したりき。その場合食事は自費となれり。この部署はメダリストをシミュレーションし、メディア・インタビューのためにそのメダリストの言語（IOCの當時の公用語は英、佛、露、伊、及び獨）の特▶通譯を會場に送る仕事をしたりき。吾は別枠にて早朝七時のサマランチ議長務むる幹部會（IOCと長野オリンピック委員

會)におきて、會議翌朝まで長野側のIOCよりの質問に答ふるためのメモを日本語にて執筆し長野側に渡すを擔當したりき。日本の官僚組織は縦割りにて効率良く機能する故か、横のコミュニケーション絶えて機能せず、仲間内の議論に終始す。IOC激怒し、翌日回答する結果となれり。例を擧ぐれば、前日吹雪の悪天候なりし時は、大回轉の競技場をいかに整備すべしや、また、選手團酒に酔ひて商店街の看板を破損せしめたる賠償を如何にすべしや等々、日を経るにつれて様々なる案件^{しゅつたい}出來し、幹部會は大わらはとなりたり。

吾はこの幹部會終はらざば朝食を攝るも叶はず。晝食の凍りし辨當は如何に空腹にてもこれを食べふは論外なり。毎日蕎麦を食せんと覺悟を決めたり。日本は金メダルラッシュに沸きたれど、吾らは同時通譯者運営に拘束せられて、會場に赴くだに許されず、食事の貧しさのみ記憶に鮮明に刻まれぬ。食べ物の恨みは長く腦に残るものなり。

(令和元年八月三十一日受附)